

犯罪から子どもを守れ！ —安全・安心まちづくり特別講演会—

安全・安心まちづくり特別講演会（松浦市、松浦警察署、松浦地区連合防犯協会主催）が8月28日、文化会館で開催されました。

市民が安全で安心して暮らせる地域社会の実現を目指した「安全・安心まちづくり条例」の条例制定1周年を記念して開催。日本女子大学人間社会学部の清永賢二教授が、「子どもの安全教育を考える～対処的対応から教育的対応～」と題して講演を行いました。

清永教授は、「犯罪者を止めることはできないが、犯罪が起こらないようにすることはできる」と、学校、警察、地域がスクラムを組んで子どもを見守ることの必要性と子どもへの安全教育の大切さを講演。この日参加した教職員、PTA関係者、市内商工業者、防犯関係者など約450人は、安心して暮らせるまちづくりについて理解を深めました。



犠牲者を悼み「元寇記念祭」

元寇の犠牲者を慰霊する「元寇記念祭」（鷹島町青年団主催）が8月30日、鷹島町で行われました。

記念祭は、阿翁浦免に元寇記念碑が建立された大正4年に始まり、現在では宮地嶽史跡公園に移された記念碑前で、毎年、仏式と神式で交互に行われています。

この日は、各代表者が玉串奉奠^{たまぐしほうてん}を行い、友広市長と中塚市議会議長が慰霊の言葉を述べ、最後に柴山勇喜青年団長があいさつをし、参列者約40人が犠牲者の冥福を祈りました。

まちの話題



おいしい野菜に育ってね

青年農業者会（白石健一会長）が9月5日、御厨小学校の畑で野菜植えの指導を行いました。

同会が平成17年度から毎年行っている食育活動の一環で、子供たちに野菜を育てることの大変さや収穫の喜びを知ってもらい、野菜嫌いをなくしてほしいとの狙いもあります。

この日参加した同校の6年生児童26人は、同会の会員4人の指導を受けながら、ダイコン、ジャガイモ、ブロッコリーの苗などを植えました。

野菜植えを行った宮島伸大君は「野菜を育てる大変さが少し分かりました。今度からは給食などを残さずに食べたいです」と話していました。

植えられた野菜は、児童たちが毎日水やりを行い、先月に植えたニンジンも一緒に12月ごろ収穫し、シチューを作って食べる予定です。



視覚障害者火災学習会

視覚障害者による火災学習会が9月8日、社会福祉センターで開催されました。

視覚障害者やその家族などに火災時の対処方法などを学習してもらおうと、視覚障害者数人で開催を呼びかけ行われたものです。

学習会には視覚障害者やその家族が参加。松浦地区消防組合消防本部前田秀一消防指令補から火災時の対処方法などについて説明を受けました。前田指令補は、火災時の避難方法や住宅火災警報器設置の重要性、火災警報器や消火器などを高額で売りつける悪質業者に対する注意を呼びかけました。





▼タイワンガザミ (オス)



福島町で稚ガニを放流

タイワンガザミの稚ガニの放流(長崎県主催)が9月12日、福島町の海岸で行われました。

県の漁業担い手確保・育成対策総合推進事業の一環で実施されたもので、子供たちに漁業に興味を持ってもらうことなどを目的にしています。

この日放流されたのは、佐世保市水産センターで育てられた稚ガニ約1万匹。福島小の3、4年と養源小の5、6年の児童約50人が参加し、県北水産業普及指導センターや新松浦漁業協同組合からタイワンガザミについての説明を受けた後、稚ガニをバケツから小さな器にすくって海に放流しました。

放流を行った山野夏稀^{なつき}さん(養源小6年)は「漁業に少し興味を持ってました。放流したカニが大きく育ってほしいので、海を汚さないように気をつけます」と話していました。

身近な食材でおいしい料理

地域活性化と雇用の創出を進めている「平戸・松浦地区観光人材育成プロジェクト」新郷土料理・地産地消推進人材育成コースの講座が9月9日、松浦海のふるさと館漁村体験学習施設で開催されました。

地域の食材を生かした新たな魅力ある名物料理の開発、地場産品を有効活用した地産地消のメニュー作りを学ぼうと企画されたものです。

この日は、JALリゾートシーホークホテル福岡の総料理長山並辰巳^{たつみ}講師が「松浦で採れる身近な食材を使って、家庭でも作れるおもてなし料理」と題して、調理をしながら講演。約60人の参加者たちは、ニガウリジュース、基本スープのとり方、魚スープ、ドレッシング、クレープなどを講師の実際の調理を見ながら、作り方や調理技術を学びました。



幻想的に棚田を照らす 2,000 の光

— 土谷棚田の火祭り —

福島町土谷地区で「第6回土谷棚田の火祭り」(同実行委員会、末吉政和会長)が、9月14日に開催されました。

土谷棚田は「日本の棚田百選」にも選ばれており、棚田をまちおこしに生かそうと、地元住民などが5年前から開催しています。

あいにくの雨模様でしたが、棚田の火祭りを見ようと市内外から約2,000人の観客が集まりました。

天候を見ながら午後5時ごろ、2,000本のたいまつに、地元住民などが次々と点火。棚田の曲線に沿ってオレンジ色の光が輝きだすと、観客は歓声を上げながら、幻

想的な光景に見入っていました。

この日予定されていた太鼓演奏やよさこい踊りなどは中止となりましたが、棚田を望むあずまやでは、TSS(日本伝統音楽を守る会)の琴と尺八の共演(写真)が行われました。

